

2023年5月26日

静岡市葵区鷹匠一丁目1番1号
静岡鉄道株式会社

静鉄グループ 2023年3月期 連結決算概況について

2期連続の黒字、営業利益は前期比約30%増加

◇連結決算概況

当連結会計年度においては、原材料価格の高騰やエネルギーコストの上昇、自動車販売事業におけるメーカーからの車両の供給不足の影響を大きく受け、年度を通じて厳しい事業環境が続きました。しかしながら、人流の回復により経済活動が活発化していく中で、行動変容に合わせたサービスをお客様に提供し、各事業を推進してまいりました。

当連結会計年度の業績につきましては、交通事業や観光売店事業、レジャー・サービス事業を中心に、利用者数が回復基調であることなどから、売上高は1,545億93百万円で前期比3.2%増となりました。

利益面では、各事業粗利益の増加などにより営業利益は19億24百万円(前期比31.7%増)、経常利益は16億32百万円(前期比45.7%増)となりました。なお、当期純利益におきましては、固定資産の減損処理等により8億40百万円(前期比18.2%減)となりました。

◇2024年3月期の計画

2024年3月期につきましては、依然として厳しい事業環境が想定される一方で、人流の回復や自動車販売事業における車両供給の段階的な解消が追い風となり、お客様の利用が着実に増加していくことを想定しております。また、顧客の価値観や行動の変容に対応するための新たな取り組みの実施や、社員一人ひとりのウェルビーイング向上を目指してまいります。

その中で、事業の健全な維持・成長を行うことにより、売上高は1,589億67百万円(前期比2.8%増)の増収を計画しております。また利益面では、人件費や原材料価格やエネルギーコスト、設備投資に伴う減価償却費の増加等により、営業利益は8億12百万円、経常利益は1億80百万円、当期純利益は4億29百万円を計画しております。

当社グループは、今後もお客様に安全・安心・快適をお届けする為の取り組みを推進するとともに、生活ニーズの多様化に応える事業活動を実施してまいります。

<添付資料>

- ・静鉄グループ 2023年3月期 事業セグメント別概況
- ・静鉄グループ 2023年3月期 連結決算指標

この件のお問い合わせは下記へお願いいたします

経営管理部

- グループ事業課：石垣(いしがき)、花崎(はなざき)
- 直通電話：(054) 254-5116
- FAX：(054) 273-0658
- Eメール：group@shizutetsu.co.jp

総務部

- 総務課：國松(くにまつ)
- 直通電話：(054) 254-5129
- FAX：(054) 255-8816
- Eメール：m.kunimatsu@shizutetsu.co.jp

静鉄グループ 2023年3月期 事業セグメント別概況

当社グループは、交通事業、流通事業、自動車販売事業、不動産事業、レジャー・サービス事業、建設事業の6つの事業セグメントで構成されています。事業セグメント別の概況は次のとおりです。

・交通事業

交通事業は、新型コロナウイルス感染再拡大や台風15号の被害による影響があったものの、利用者数が増加したことなどから、売上高が127億87百万円(前期比10.0%増)となりました。また、2022年11月には、静岡市内の静鉄電車と路線バスを無料にし、ゼロカーボンアクションを提案するワンデーイベントを実施しました。

鉄道事業では、2022年12月に、経済活動を後押しし夜間時間帯の利便性を向上させるためと、ゆとりをもった車両の乗降時間を確保するために、ダイヤ改定を実施しました。また、2023年3月より静岡ゆかりの徳川家康公に関するプロジェクトの1つとして家康クラッピングトレインの運行を開始しています。なお、前期に比べて利用者数は約6%増加しましたが、新型コロナウイルスの影響が少ない2019年度に比べて、利用者数は約19%減少しています。

索道事業の日本平ロープウェイでは、全国旅行支援や大河ドラマ「どうする家康」による影響などがあり利用者数が回復したため、前期に比べて利用人員が約75%増加いたしました。また、安全対策の設備更新のため、2022年6月13日から約1ヶ月間、運休いたしました。

乗合バス事業のしずてつジャストラインでは、高速路線において、2023年1月より静岡羽田空港線の運行を開始したほか、2023年3月より東京ディズニーリゾート®への運行を開始するなど、前年より利用人員が増加しました。しかしながら、エネルギーコスト上昇の影響を受けているほか、2019年度比では、利用者数は約18%減少しています。

貸切バス事業の静鉄ジョイステップバスでは、修学旅行等の団体利用やイベント利用が再開されたほか、契約輸送の追加受注があり、前期に比べて貸切稼働数は約16%増加しました。なお、2019年度比では、貸切稼働数は約41%減少しています。

タクシー事業の静鉄タクシーでは、配車に対する利便性を高めるため、タクシー配車アプリ「GO (ゴー)」を導入し、営業エリアである静岡市と藤枝市でサービスを開始しました。前期に比べて運送回数は12%増加しましたが、2019年度比では、運送回数は約20%減少しています。

・流通事業

流通事業は、スーパーマーケット事業の販促強化による売上確保や、高速道路のサービスエリアを中心に人流が活発化したことにより、売上高が446億26百万円(前期比1.1%増)となりました。

スーパーマーケット事業の静鉄ストアでは、2022年4月よりネットスーパーを順次開業し、6月より移動スーパー「とくし丸」を順次開業したほか、10月からは新ブランドの小型店舗「KITE-GO」を開業いたしました。さらに、2022年4月より新たなプライベートブランドとして、「いい値! チョイス」と「生産者の声を聞きました。」を販売開始しました。少子高齢化や単身者の増加、デジタル化の進展等による、顧客の購買スタイルの変化に対応しましたが、既存店売上高はドラッグストア等他業種の価格競争による影響を受け、前期に比べて約1%減少しました。

食堂売店事業の静鉄リテイリングでは、客数増加により観光売店事業の売上が増加いたしました。2023年1月には、静岡市大河ドラマ「どうする家康」活用推進協議会より、静岡浅間神社境内の物販店「家康公初恋の地しずおか ギフトショップ」の運営を受託いたしました。

・自動車販売事業

自動車販売事業は、メーカーからの車両の供給不足の影響を受け、厳しい事業環境下でありながらも、売上高が718億16百万円(前期比3.3%増)となりました。

自動車販売事業のトヨタユニテッド静岡では、2022年7月より、カーボンクレジットを付与した高性能スポーツカー「スープラ」の販売を開始しました。また、2022年8月には、トヨタユニテッド静岡初となるダイハツショップである「ダイハツ小笠中央」を新規オープンしました。なお、新車販売台数につきましては、サプライチェーンの停滞による車両の供給不足の影響があり、前期とほぼ同数となりました。中古車につきましては、販売台数は約25%減少いたしました。なお、新車販売単価が増加したことなどにより、前期に比べて売上は増加いたしました。

自動車リース事業のトヨタレンタリース静岡では、レンタカー事業においては、人流の回復により、前期に比べて貸渡件数が約29%増加したほか、リース事業においては、保有台数の増加や電動車の提案等により、前期に比べて売上は増加いたしました。

・不動産事業

不動産事業は、新静岡セノバの館内売上は増加しましたが、分譲マンションの引き渡し戸数の減少等により、売上高が117億56百万円(前期比2.5%減)となりました。また、「静鉄不動産」ホームページのリニューアルし、オンラインサービス機能を拡充するなど、従来の不動産事業活動のDX化を実施いたしました。

不動産賃貸事業では、新型コロナウイルスの影響により減額となっていた賃料が水準に戻りつつあることや、沼津大岡貸店舗への誘致開始等により稼働率の維持向上に努めたことから、前期を上回る売上を確保いたしました。

不動産販売事業では、ZEH(ネットゼロエネルギーハウス)住宅の販売を開始したほか、「エバースクエア千代田」のほか5物件が好評のうち完売いたしました。分譲マンションは、新規販売物件がなかったことから、引き渡し戸数が減少いたしました。

ショッピングセンター事業の静鉄プロパティマネジメントでは、新静岡セノバにおいて、2022年4月より約2ヶ月間、劇団四季とタイアップした企画「CENOVA SEA」を実施しました。さらに、2022年9月より約1ヶ月間、開業11周年を記念して、静岡市立日本平動物園とタイアップした企画「セノバ動物園」を実施するなど様々な企画で各テナントの売上増加につなげた結果、館内売上は前期に比べて約5%増加いたしました。

・レジャー・サービス事業

レジャー・サービス事業では、ホテル事業の稼働率増加や客室単価増加等により、売上高が88億18百万円(前期比9.8%増)となりました。

ビジネスホテル事業では、前期に比べて全7施設において稼働率が上昇し、平均稼働率は77.0%(前期比21.1pt増)となりました。2022年9月26日から5日間、静鉄ホテルプレジオ静岡駅北、および静鉄ホテルプレジオ静岡駅南の2店舗にて、台風15号に伴う災害への支援として、「被災者支援特別宿泊プラン」を販売いたしました。また、2023年1月より「徳川家康コンセプトルーム」の販売を開始いたしました。

広告代理事業の静鉄アド・パートナーズでは、静岡市大河ドラマ「どうする家康」活用推進協議会より、「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」の運営を受託いたしました。

・建設事業

建設事業の静鉄建設では、清水両河内小中一貫校整備事業小学校棟校舎増築等工事などを施工したことにより、売上高が47億88百万円(前期比8.5%増)となりました。また、草薙駅北口自転車等駐車場建設工事ほか、3つの工事において、静岡市より「優良建設工事表彰」を受賞しました。